

Keyword: 留学、ハンガリー、歴史、留学体験記、ブダペスト

1.はじめに

私は、ハンガリーの首都ブダペストに一年間留学をした。きっかけから話すと、私はもともと歴史が好きで、日本で学ぶ歴史にも強い関心があった。しかし、もっと広い視野で世界の歴史を学びたいという思いがあり、中学生の頃からいつか海外で生活してみたいという憧れを持っていた。また、多くの人が行く英語圏ではなく、英語以外の言語を使う国に行ってみたいという好奇心もあり、私はヨーロッパのハンガリーに一年間留学することを決めた。

出発前は、不安と期待が入り混じっていた。ハンガリーという国については、地理や歴史の授業で少し学んだ程度で、実際の生活がどのようなものか想像がつかなかった。英語も通じにくいと聞いていたので、異国での生活をうまくやっていけるかという不安もあった。それでも、自分の目で世界を見てみたいという思いが勝り、いつでも勇気を出すことができた。

2.序論

ハンガリーは知れば知るほど奥深く、素晴らしい国だった。もともと西アジアから移動してきたマジャール人が築いた国であり、他のヨーロッパ諸国とは少し異なる文化や歴史を持っている。ハンガリー語はフィンランド語と同じ語源を持ち、他のヨーロッパの言語とはまったく異なる。そのため、最初は言葉が全く分からず、学校でも日常生活でも苦勞の連続だった。買い物一つでも、注文の仕方やあいさつが分からず戸惑うことが多かった。しかし、学校の友達やホストファミリー、他の留学生たちと毎日会話を重ねるうちに、少しずつ理解できるようになり、最後にはハンガリー語だけで会話できるようになった。言葉を学ぶことの大切さだけでなく、「相手を知ろうとする姿勢」こそが本当のコミュニケーションだと感じた。

学校では、歴史や地理、音楽、スペイン語などの授業を受けた。授業はすべてハンガリー語で行われたため、最初は先生の話すことが全く分からず何も出来ない日々が続いたが、それでも、周りの友人たちは根気強く助けてくれた。分からない単語を絵で説明してくれたり、発音を直してくれたりするうちに、言葉だけでなく文化の違いも学ぶことができた。

3.本論

ブダペストでの生活は、文化的な発見の連続だった。街を歩くと歴史的な建物や記念碑が至る所にあり、日常の中に過去の痕跡が息づいていた。特にブダペストは、美しいドナウ川を中心に古い街並みと現代的な文化が融合しており、「歴史が活着ている街」だと感じた。オペラ座の玄関や古い教会の壁には、第二次世界大戦の弾痕が今も残っており、過去の出来事が決して遠いものではないことを実感した。日本では歴史を教科書で学ぶことが多いが、実際にその場に立ち、建物や空気を通して感じる歴史には、言葉にできない重みがあった。

ホストファミリーとの生活も私にとって大きな学びだった。ホストマザーは旅行が大好きで、休日にはよく家族みんなで出かけた。イタリアやフランス、チェコ、オーストリア、ドイツ、クロアチア、スロベニアなど、十ヶ国以上を訪れることができた。どの国でも教科書で見た建物や歴史的な遺跡を実際に目にしたとき、写真や文章では伝わらない感動を味わった。国が違えば文化や人々の考え方も異なり、「当たり前」が国によってこんなにも違うのかと驚かされた。

中でも最も印象に残っているのは、ポーランドのアウシュビッツ強制収容所を訪れたときのことだ。実際に中を歩き、説明を受けながら「本当にここでそんなことが起きたのか」と思うと胸が締めつけられた。ユダヤ人だけでなく、ハンガリーからも多くの人々が収容され、命を落としたことを知り、衝撃を受けた。日本で歴史を学んでいたときには、そこまで深く知ることはなかった。実際にその場に立ち、空気を感じ、人々の話を聞くことで、初めて「歴史が現実だった」と心から理解できた。

ホストファザーの家族はもともと現在のルーマニアの地域に住んでいたが、国の分裂によってハンガリーに移り住んだと聞いた。その話を通して、国境や民族の問題がどれほど人々の人生に影響を与えるのかを実感した。これまで日本で学んできた「世界史」は出来事としてしか理解していなかったが、ハンガリーでの経験を通じて、歴史の裏にはいつも人の物語があることを学んだ。

4. 結論

この一年間の留学で、私は大きく成長した。初めは不安や戸惑いも多かったが、言葉や文化の壁を越えて人とつながる喜びを知った。そして、歴史を「学ぶこと」から「感じること」へと捉え直すことができた。ハンガリーの人々は、つらい歴史を経験しながらも、自分たちの文化や言葉を大切に守り続けている。その姿を見て、歴史は過去のものではなく、今を生きる人々の中に息づいていると感じた。

5. おわりに

留学を通して感じたのは、学ぶということの本当の意味である。教科書の中で知る歴史も大切だが、現地に行き、人と関わり、文化や価値観を肌で感じることでしか得られない学びがある。私はこの経験を通して、自分の視野を広げ、世界の多様性を理解することの重要性を学んだ。これからも世界を自分の目で見て、感じ、考え続けていきたい。そして、歴史を通して「人」を理解できるような学びを重ねていきたい。留学で得た経験や感情は、私の人生の宝物であり、これからの生き方の基盤になると思う。